

令和7年度 とうきょうくすわくプログラム 活動報告書 インターナショナル不動前えほん 保育園

テーマ	音楽や演劇で心を育む表現活動		
テーマの設定理由	当園では「非認知能力の成長」を重視する保育方針のもと、自己選択活動の環境を設定し、保育の充実を図っています。その活動をさらに推進するため、非認知能力の成長に直結する「音楽演劇表現活動」を実施したいと考えました。子ども一人ひとりが自分自身の個性を安心して発揮できる子ども主体の環境において、子どもの活動が大人によって過度に制約されない「自由」が保障されていることは非常に重要な要素であると考えています。子どもたちが主体的に取り組むことができる表現活動を通じて、保育者と子どもたちが共に、保育環境における「子どもの主体性」と「自由」について考えることは、子どもたちの「非認知能力の成長」にとって有効であると考えました。		
対象クラス・人数	4歳児 13 名 ・5歳児 13名		
テーマ実施期間・回数	4月～翌3月 4・5歳児別クラス活動 月1回(全12回) 1回90分		
ねらい・内容	「音楽を使いながら、他者を認め(他者理解)演劇というツールで自分を理解する(自己理解)」ことをテーマに、「表現活動を通して子どもたちが協働する場」を設定します。非認知能力の成長のために重要な要素の一つは、人的環境の多様性です。子ども向けの表現活動を日ごろから実施しているプロアーティストにかかわっていただき、最大限の想像力と集中力を養いながら、発想力、想像力、協調性、コミュニケーション能力…全てを遊ぶように学んでいきます。みんなで歌い、それぞれの役割を見つけ、「みんなで協力して発表する」までをワンストップで行うプログラムです。		
保育者の思い	音楽や演劇で心を育む表現活動を題材に聴く、感じるは元より、音楽リズムで集団で行う楽しさを体験してほしいと思います。 また、表現する事の難しさや楽しさも発表を経験し、音楽をより身近なものにしていければと思います。		
活動スケジュール及び振り返り			
月	内容	活動	振り返り
5月14日	リトミックで音遊び	・リトミックを通じて音の高低や強弱を感じる。 ・様々なリズムに合わせて体を動かす。 ・音楽に対する興味を引き出し、体全体で音楽を楽しむ。	初めての活動に始まる前から期待感を持っているようであった。始まってからも全員意欲的に参加できていた。オーガンジーが配られた際には話を聞かず遊ぶ児が何名か見られたが、最後には自らオーガンジーを置き聞く姿勢を取る姿も見られた。
6月11日	物語からのごっこ遊び	・歌や楽器を使ったごっこ遊びを通じてストーリーを作り出す。 ・音楽を使った表現力の向上と創造力の芽生え	日頃から保育の中で自分の思いを伝える機会を設けていたことで保育者の投げかけに対しても積極的に答えたり、意見を伝え合い楽しむことが出来ていた。
7月9日	ピアノの音で動いたり止まったり	・ピアノの音に合わせて動いたり、音が止まったら動きを止めるなど。 ・リズム感や集中力を養う。	活動中一部保育者の声が届きにくくなる様子があった。音の抑揚・楽器・ジェスチャーなども含めた「集中への切り替えスイッチ」を意識的に設けていきたい。
7月30日	打楽器との出会い	・打楽器に触れる機会。簡単な曲を一緒に演奏。 ・打楽器の特性を理解し、協力して演奏する楽しさを体験。	素朴な疑問を口にしながら音への関心と学びへの意欲が強く感じられた。視覚的要素への関心も高く楽器や講師の見た目を褒める姿もあった。耳だけでなく五感を使用し活動に参加出来ていた。
8月27日	弦楽器との出会い	・バイオリンとビオラの紹介。音の違いを実感。各楽器の演奏を観察。 ・弦楽器に対する理解を深め、音色の違いを楽しむ。	バイオリンとビオラに目を輝かせ真剣に見つめ、音に反応する姿が見られた。実際に目にする機会がほとんどない楽器であったこともありいつも以上集中していたように感じる。
9月10日	管楽器との出会い	・フルートとピッコロの紹介。それぞれの吹き方を学ぶ。 ・管楽器の特徴を知り、音を出す楽しさを体験。	フルートの音を聴いた瞬間の驚きや表情は普段見るものとは異なるもので新鮮さを感じていた。かえるのうたときらきら星が重なりと耳を傾けながら何が流れているのか聴く力を、つられながらも最後まで歌い切ろうと表現する力を発揮していた。
10月8日	これまでの振り返り	・「ひつつきもつつき」：ペア・3人組などアレンジバージョン ・「やってみよう！あいうえお」(た行まで) ・絵本「トリックオアトリート！」読み聞かせ ・「ハッピーハッピーハロウィン」の音楽に合わせた即時反応(おぼけになりきって行進・ダンス) ・発表タイム：名前と「なったおぼけ」を一人ずつ発表 ・季節のうた「どんぐりころころ」：動きを考えて歌い、発表し合う	子どもたち一人ひとりが自分で考え、友達と協力しながら形や動きを作り出す姿が見られた。表現の豊かさに感動しました。「ひつつきもつつき」一人の発想から次々と面白い案が生まれユニークな発想を見せていた。年長組ではそれをさらに発展させ、ペアや3人組で多彩なポーズを創り出すなど、まるで小さなアート作品のような動きが生まれ子どもたちの豊かさを感じることができた。

11月12日	ピアノとの触れ合い	・音の聞き分け:4 種類の即興演奏を聴き、どんな動物が想像して動く ・即時反応(生演奏「さんぽ」)【止まる／歩く／スピードアップ／ゆっくり／高い／低い／優雅／悲しい短調】など → 音を感じて身体・表情で表現	即時反応ではピアノの音を聴き、音の速さや強弱を身体全体で受け取り、のびのび動く姿が見られた。以前より音を聴いて動くことに慣れてきたように感じる。
12月10日	山の音楽家はみんな音が違うのに ハーモニイができる	・これまで習った楽器を使って、みんなで一緒に奏でる時間を設ける。 ・異なる音色が調和することの大切さを学ぶ。	『しあわせならてをたたこう』を題材にどんなことをしたいか尋ねると元気いっぱい手を挙げ、自分の考えを伝えようとする意欲が見られた。中には恥ずかしい気持ちを抱きながらも友だちと一緒に考え伝えようとする姿もあった。迷いながらも一歩踏み出して伝えようとする姿に成長を感じた。また友達の発表を見て声を出して反応したり、「面白いね」「いいね」と認め合う姿も多く保育者や友だちとの間にある安心感や信頼感を感じることができた。
1月14日	声という楽器を持っている発見。ごっこ遊びから、お芝居を作る。	・声を使った歌や手拍子の演奏。声の大きさや音色を意識。 ・声も楽器の一部であることを理解し、自分の声を大切にする。 ・物語と音楽が繋がることでより想像力が豊かになることを目的とする。	年中組では、スカーフを渡す場面でも取り合うことなく、相手の様子を見ながら行動する姿が見られ、特にさらちゃんが落ち着いて順番を待つ姿が印象的。年長組は話をよく聞き、楽しむ時には思いきり楽しむというメリハリのある行動が、さらに磨かれていると感じた。絵本『みーせーて』の活動では、年中組も一人ひとりが自分の好きなものを声に出して発表し、年中・年長組ともに、お友だちの発想と一緒に想像しながら聞く姿が見られた。即時反応「さんぽ」で動物になりきる場面では、細かな表現まで工夫する子が多く、特におとくん、つばさくんの「かめ」の表現が印象的でした。活動を通して、先生方が子どもたち一人ひとりをよく見て細やかにサポートし、安心して集中できる環境を整えているまた、『ねこのおいしゃさん』ではピアノ伴奏も即座に対応した
2月4日	ルールを決めて、みんなで作品を作ってみよう。楽器も声も、手拍子もお芝居も全部みんなでできるんだ！	・今までの歌と楽器の演奏を組み合わせた 合奏を行う。 ・演奏の一体感を体験し、作品を作る喜びを知る。自信を持つ。	前日が節分ということもあり”おにのパンツ”を振付きで踊ったり”雷どんがやってきた”で一生意気な隠そうとする姿があった。その後は絵本を読み「アイススケートベンギン」の真似をしてみよう！ということのでみんなでスケートを表現し楽しんでた。
3月11日	まとめと演奏会・発表会・振り返り	・子どもたちが参加したクラスでの演奏会を実施する ・各楽器や歌を披露しみんなで楽しむ。 ・1年間の学びを振り返り、音楽表現の楽しさを共に分かち合う。	大きな楽器に興味津々の子どもたちで、マリオの曲やリトルマーメイドの曲の他にもにじをみんなで歌ったり三匹のヤギのガラガラドンをテーマに身体を動かしたりと馴染みのある曲で楽しむことが出来ていた。今回はピアノとコントラバスであったがこの1年様々な楽器の生演奏を聴き本物の音楽に触れることができるとても良い経験になったように感じる。



